

授業科目名	キャリア形成論	担当教員	夏 世明
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年 第3クォーター		
講義内容	<p>近年、社会環境および産業構造は急速に変化しており、デジタル化 (DX) の進展、グローバル化、副業・フリーランスの拡大などを背景に、働き方や雇用システムは大きな転換期を迎えている。従来の雇用型モデルを前提としたキャリア観は再検討を迫られ、個人が主体的にキャリアを形成・再構築することが求められている。</p> <p>本科目では、こうした社会構造および雇用システムの変容を踏まえ、キャリア形成を「個人の選択」の問題としてのみではなく、社会・組織・文化との相互作用の中で捉える。特に、組織経営においてキャリア開発支援が重要な経営課題となっている現状を踏まえ、組織内における個人のキャリアの変化とその理論的背景についても検討する。</p> <p>講義では、キャリア形成に関する主要理論を概観したうえで、現代のキャリア形成の特徴と課題をめぐって、グループワークおよび映画鑑賞などを通して分析する。さらに、専門職大学に在籍する学生として、専門職キャリア形成のあり方を検討し、自らの将来設計と職業選択に結び付けて考察する。</p> <p>キャリア形成は社会人以降に開始されるものではなく、進学や経験の蓄積を通じて継続的に形成される過程である。大学在学期間はその重要な転換点であるとの認識に立ち、本科目では理論・概念の理解に加え、実践的視点も重視する。そのため、学外ゲストスピーカー、外部キャリア支援機関や学内キャリアサポートセンター等との連携を通じて、理論と実務を架橋する学修機会を提供する。</p>		
到達目標	<p>(1) 現代のキャリア形成の背景にある社会の変化について理解し説明できる。</p> <p>(2) 戦略的・専門職的な視点からキャリア形成について理解し他者に説明できる。</p> <p>(3) 属性にとらわれず、一人ひとりの状況を踏まえたキャリア形成に繋げる「創造力」が持てる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. キャリア形成とは</li> <li>2. 大学におけるキャリア支援の意義</li> <li>3. キャリア・アセスメント：自分を知る</li> <li>4. キャリア形成の主体性</li> </ol>		

	<p>5. キャリア形成における自律</p> <p>6. キャリア形成と組織</p> <p>7. キャリア形成とワークライフバランス</p> <p>8. キャリア形成とジェンダー</p> <p>9. 専門職キャリア形成①：理論編</p> <p>10. 専門職キャリア形成②：観光系</p> <p>11. 専門職キャリア形成③：芸術文化系</p> <p>12. 総括・グループ発表</p> <p>※上記のスケジュール等はゲストスピーカー、連携先との調整状況により変更になる可能性有り。</p>
事前・事後 学習	<p>事前学習：次回トピックに関する情報収集、整理などを行う。</p> <p>事後学習：講義内容を復習する。</p>
テキスト	特になし
参考文献	<p>1. 金井壽宏・鈴木竜太 編著『日本のキャリア研究：組織人のキャリア・ダイナミクス』白桃書房、2013</p> <p>2. 金井壽宏・鈴木竜太 編著『日本のキャリア研究：専門技能とキャリア・デザイン』白桃書房、2013</p> <p>3. 宗方比佐子・鶴田美保子『大学生のための「キャリア開発の教科書」』ミネルヴァ書房、2022</p> <p>4. 武石恵美子『キャリア開発論〈第2版〉—自律性と多様性に向き合う』中央経済社、2023</p> <p>5. 山崎京子・平林正樹『未来を拓くキャリア・デザイン講座』中央経済社、2018</p>
成績評価 の基準	<p>10回以上の出席を前提に、</p> <p>1. 出席率：20%</p> <p>2. リフレクション・シートの内容&amp;概念理解小テスト：30%</p> <p>3. クラスへの貢献度：20%（グループ・ディスカッションへの貢献度）</p> <p>4. 期末レポートの内容：30%（論点の提示、レポートの書き方）</p> <p>※フィードバックの方法：毎回の講義の冒頭で前回授業のフィードバックを行う、必要に応じて学内システムを用いて行う。</p>
履修上の注意 履修要件	<p><b>【要注意】</b></p> <p>1. 成績評価基準は厳守いたします。</p> <p>2. 途中、「キャリア形成」をテーマとした映画鑑賞を行う予定があります。</p>

	その場合、次回の授業では当該映画を題材としたグループワークを実施する予定であるため、可能な限り欠席のないよう出席してください。
実践的教育	該当する。
備考欄	50名超過の場合、抽選を行う。 2025年度カリキュラム：2025年度以降の入学生のみ履修可 (2021年～2024年度入学生：履修不可) R8～